

菅原道真及びその周辺の詩人の作品の中で、どのような意味で使われているのか考察してみた。検索しえた作品を以下に列記してみる。

『菅家文章』

▼ 「39 八月十五夕、待月。席上各分一字。得疎」

「五更待月事何如、物色人情計會疎」

▼ 「75 秋日山行二十韻」

「日脚光陰走、年華物色凋」

『田氏家集』

▼ 「9 九日上山行」

「足輕遊觀到巖邊、物色因秋觸處憐」

▼ 「76 秋暮傍山行」

「行看物色垂鞭去、日及西衢半路輝」

▼ 「4 早秋」

「感傷物色還成癖、此癖無方莫肯治」

【考察】

▼ 『菅家文章』 『田氏家集』 の詩中、「物色」は自然の風物、景色、自然現象などの意味で使われる例が多く、「絃意一百韻」の句中の「物色」も、官舎の周りの風景を詠んだものと思われる。

(野田了介)